

拜復去る一月二十七日附置組合船員大会に關する書翰止に拜誦仕致御由紙の決議御実行の場合には船員不足の關係上多數繁船の己れを得ざる悲慘事をも惹起致し船主の家も迷惑一方ならざる可く海運界リ一大不祥事としてい痛罷任候も平素貴組合の健康なる御主張に鑑み御意見を尊重し海運協会の常態復帰を希望せらるゝにありと拝察仕り常会は別紙通り海運協会对し希望を披瀝し一面我々莫にも成行を移謀し注意を喚起致置候間猶此上とも我海運発展の爲に全幅の御努力相煩し度存候  
右御回答申上候  
敬 具

別紙 (五)

総 形 第四七號

昭和九年二月五日

日本船工協会

会 長 黒川新次郎

會員協會事務理事 尾崎勝太郎殿

拝啓嚴冬の候貴公益に御隆益の段々實候

陳者去る一月二十五日御附置相成候貴協定会定期総会席上に於て偶々貴会並日本海運組合の主被たる労働協調の精神に背反する若貴会員の一部に存在せる事実を認めたる由にて海運組合は夫等一部高級船員との同船を拒絶する旨二月二十六日船員大会にて決議せりとて別紙寫り通り通知有之候本邦船員大部分が二団体に細釋せらるゝ現状に於て一方の団体が友誼干係を結ぶる他方団体に属す

一部船員より全船拒絶の決議するが如きは其の実行範圍の如何に拘らず海運界リ一大不祥事にレ  
て將來に及ぼす影響が相当重大なるを憂慮在罷候從來常に持統せる労働協調の協調主義は我海運界リ  
誇りとレて衷を深やせしにも拘らず適次惹起したる一部船員間の不和にして漸次拡大するが如きこ  
と尙之候付、打南の労働協調も大に力を減殺致さる可く斯くしては尚ほ不本意の至に就き此際貴協  
会の御盡力に依り一日も早く其禍根を支除レ以て全海運の融和を図り本邦海運の発展に全幅の御協  
力を賜はるふと相叶ひ候依御高配を煩し度海運協同会構成団体の一員として切望仕候

敬 具